
西南支部ニューズレター（53号）

2023年11月9日

<内 容>

1. 2023年度支部例会開催のお知らせ
 2. 2023年度支部総会開催のお知らせ
 3. 2023年度支部役員
-
-

1. 2023年度支部例会開催のお知らせ

2023年度支部例会として、沿岸海洋研究会および水産海洋学会と共催して、以下のとおり、九州沖縄地区合同シンポジウムを開催します。

2023年度 九州沖縄地区合同シンポジウム 「海と陸域・河川の結合システム」

日 時：2023年12月8日（金） 10:00～17:10
会 場：春日市春日公園 6-1 九州大学応用力学研究所 W601
(<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/chikushi/chikushi.html>)

コンパネー：木田 新一郎（九大応力研）・広瀬 直毅（九大応力研）

参加申込：参加申込は不要です。*対面のみ開催

共 催：日本海洋学会西南支部、水産海洋学会、日本海洋学会沿岸海洋研究会、
九州大学応用力学研究所

挨 拶：米崎 史郎（一般社団法人水産海洋学会副会長） 10:00～10:05

中野 俊也（日本海洋学会西南支部長） 10:05～10:10

趣 旨 説 明：木田 新一郎（九大応力研） 10:10～10:15

【基調講演】

座長：木田 新一郎（九大応力研）

1. 海色衛星を利用した海と陸域・河川の結合システムの把握 10:15～10:55
石坂 丞二（名大宇宙研）

【一般講演】

2. 豊かな森の栄養が豊かな海を育むか？—国東半島を例に— 10:55～11:15

山下 洋（京大フィールド研セ）・杉本 亮（福井県立大海洋生物）・

田村勇司（大分県東部振興局）・Lavergne Edouard（Plastic@Sea）・笠井亮秀（北大水）

3. 閉鎖性海域（久美浜湾）における貧酸素水塊の解消過程—冬季の鉛直混合を阻害する淡水流入—

11:15～11:35

船越裕紀・田中雅幸（京都海セ）・小林志保（京大院農）・藤原建紀（京大フィールド研セ）

4. マクロタイダルな河川感潮域は海域への主要な栄養塩ソースになるか？－夏季の六角川における場合－
11:35～11:55
速水祐一（佐賀大農）・高巢裕之（長崎院水環）・小森田智大（熊県大環）
(休憩：日本海洋学会西南支部総会) 11:55～13:10
- 【基調講演】**
座長：広瀬直毅（九大応力研）
5. 港湾施設の被災状況把握のための ICT 活用と今後の展望について 13:10～13:50
芳倉勝治（株式会社パスコ）
- 【一般講演】**
6. リアルタイム河川流入モデルを組み込んだ海洋予測モデルの応用－2023 年台風 2 号大雨による流木漂流
13:50～14:10
美山透（JAMSTEC APL）・宮澤泰正（JAMSTEC APL）・石井洋（神奈川水技セ）
7. 係留系とタンク法を用いた河口干潟における底生微細藻類と植物プランクトンの基礎生産の定量
14:10～14:30
尾崎竜也・山下奈々・本田陸斗・中津伸彬・馬込拓海（熊県大環）・田井明（福工大）・
山田勝雅（熊大）・小森田智大（熊県大環）
8. 緑川河口干潟におけるアサリの生物生産が基礎生産者に与える影響 14:30～15:00
山下奈々・尾崎竜也・本田陸斗・小森田智大（熊県大環）
(休憩) 15:00～15:10
- 座長：大貫陽平（九大応力研）
9. 冬季に河口干潟に飛来するカモ類のベントスへの影響と水深に対するカモ類の応答 15:10～15:30
本田陸斗（熊県大環）・山下剛久（JAMSTEC）・小森田智大（熊県大環）
10. 冬季の緑川河口干潟におけるカモ類を高次捕食者とした生態系構造の解明 15:30～15:50
小森田智大・府高大祐・本田陸斗・山下奈々・尾崎竜也・阿草哲朗（熊県大環）・
藤林 恵（九大）・高野茂樹（熊本野鳥の会）・山下剛久（JAMSTEC）
11. 河川フロントの流速場の高解像度推定 15:50～16:10
杉原光都（九大総理工）・木田新一郎（九大応力研）
12. 等密度面モデルの陸域への拡張による、白川流域における水文過程の検証 16:10～16:30
佐藤啓明・山敷庸亮（京大総合生存学館）・木田新一郎（九大応力研）
13. マクロ沿岸海洋学「沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価」 16:30～16:50
遠藤貴洋（九大応力研）・郭 新宇（愛媛大沿環研セ）・小針 統（鹿大水）・張 勁（富山大理）・
仁科文子（鹿大水）・吉江直樹（愛媛大沿環研セ）・中村啓彦（鹿大水）・
森本昭彦（愛媛大沿環研セ）・木田新一郎（九大応力研）・滝川哲太郎（長崎院水環）
- 【総合討論】**
進行 木田新一郎・広瀬直毅（九大応力研） 16:50～17:10
- 閉会の言葉 17:10

開催趣旨：九州周辺域では毎年のように集中豪雨・台風によって河川が増水し、大量の淡水が海洋に流入するイベントが発生している。河川水は栄養塩を始めとした陸域から海への物質流入の源であることから、気候変動にともなう河川水の流入量・出水期の変化は水産や海洋環境に大きな影響をもたらすことが考えられる。河川を通じた陸と海洋のつながりに関する研究の多くは湾ごとに進められることが多いが、九州沿岸は黒潮・対馬海流とともに長江希釈水、とより大きい空間スケールで起こる塩分変動の影響も受けている。そこで本シンポジウムでは九州・沖縄を中心とした湾・海域・広域で進められている海と陸域・河川水との繋がりに関わる研究事例を紹介する。これまで各海域で蓄積されてきた知見を集約し紹介・比較することで、海域ごとの特異性の抽出および広域的な共通性の発見、さらに今後の海域間の連携研究を推進する。

12月8日の夜に懇親会を行う予定です。

参加希望の方は、九州大学応用力学研究所 広瀬直毅までメールをお願いします。

E-mail : model@riam.kyushu-u.ac.jp

2. 2023 年度支部総会開催のお知らせ

以下の予定で西南支部総会を開催いたしますので、参加くださいますようお願いいたします。

1. 開催場所 春日市春日公園 6-1 九州大学応用力学研究所 W601 (合同シンポジウムと同じ会場)
2. 開催日時 2023 年 12 月 8 日 (木) 12:00~13:00 (合同シンポジウムの昼食時)
3. 報告
 - 1) 2023 年度事業報告 2) 会計報告 3) その他
4. 議題
 - 1) 2024 年度支部役員 2) 2024 年度事業計画 3) 法人化に伴う会則の改正 4) その他
 - 「3) 法人化に伴う会則の改正」について (支部長：中野俊也)

現在の会則は、発足当時のままとなっており、法人化する機会に会則を現状に合うように改正することにした。今回の総会で、これまでの経緯等を説明し、案を確定させ、学会幹事会に提案したいと考えている。

3. 2023 年度支部役員 (支部長, 副支部長, 幹事)

支部長：中野俊也 (長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 長崎海洋アカデミー)

副支部長：松野 健 (九州大学)

事務担当幹事：滝川哲太郎 (長崎大学)

水産海洋学会担当幹事：渡邊俊輝 (山口県)

沿岸海洋研究会幹事：磯辺篤彦 (九州大学)

令和 5 年度例会担当幹事：木田新一郎 (九州大学)

後記

海洋気象学会が活動停止のために、2015 年から合同シンポジウムの共催から外れてから、早や 8 年が経ちました。今年のシンポジウムのテーマは「海と陸域・河川の結合システム」になります。開催趣旨によると、集中豪雨や猛烈な台風などの異常気象が背景としてあげられています。物理環境としての大気-海洋相互作用だけでなく、気象現象が引き金となる化学・生物などの海洋生態系への影響も考える機会になりそうです。皆さんにお会いして、議論できることを楽しみにしています。

(事務局：滝川哲太郎)

本ニュースレターに関するご意見や投稿したい情報等がありましたら、下記へお知らせ下さい。

日本海洋学会西南支部事務局
長崎大学 大学院 水産・環境科学総合研究科 (滝川哲太郎)
〒852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14
電話：095-819-2810 Fax：095-819-2799
E-mail: tetu@nagasaki-u.ac.jp

日本海洋学会西南支部ホームページ
<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/oed/swb/swb.html>
Web 担当：上原克人 (九州大学)